

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担研究報告書）  
がん相談支援センターの医師への周知に関する体制整備の検討  
～がん相談支援センターでの周知の取り組み方法について～

研究代表者 高山 智子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（部長）  
研究協力者 齋藤 弓子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（特任研究員）

研究要旨

本研究では、がんと診断されて間もない人への情報提供のために作成された資料である冊子を、適切な時期に対象となるがん患者とその家族へ届けるため、院内での冊子の配布方法について、がん相談支援センターのがん専門相談員（以下、相談員）を中心とする現場の実務者の視点を通じて検討することを目的とした。調査協力の得られた33施設の相談員へ院内での冊子の配布方法についての検討を依頼し、各施設での具体的な取り組みを把握するためアンケート調査を実施した。

その結果、冊子配布前後の相談件数には大きな変化は見受けられなかったが、がんと診断されて間もない時期や治療前にある患者や家族からの相談の中には、冊子に記載された情報に関する相談があり、相談者や医師の対応にも変化がみられ冊子配布の効果である可能性が示唆された。また施設内での対応として、冊子を配布する際には、施設管理者（院長・診療科部長など医師）から冊子配布の目的を説明する等、組織的な取り組みがなされていた。

冊子の配布・活用を促進し、相談支援センターの周知を図る上では、相談員らが施設管理者の理解を得て適切なサポートが受けられるよう、組織の体制を整備するための働きかけが重要であると考えられた。

A. 研究目的

がん診療連携拠点病院においては、がん患者およびその家族に対して、外来初診時に主治医からがん相談支援センター（以下、相談支援センター）について説明する等、診断初期の段階から相談支援センターの周知を図る体制を整備することが求められる。しかし、診断初期に相談支援センターを利用したことがある人が少ないことが課題となっている。

相談支援センターの周知を図ると共に、診断後間もない人に必要な情報を届け、主治医や医療者とのコミュニケーションの手掛かりとなることを目指し、国立がん研究センターがん編集委員会と都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会とが共同し、「診断後間もない人への情報提供資料（以下、冊子）」を作成した。

本研究では、冊子を適切な時期に対象となるがん患者とその家族へ届けるため、院内での冊子の配布方法について、がん相談支援センターのがん専門相談員（以下、相談員）を中心とする現場の実務者の視点を通じて検討することを目的とした。

B. 研究方法

本調査では、相談員を中心とする担当者へ院内での冊子の配布方法についての検討を依頼し、その内容をWebアンケートにて把握した。

a. 対象者

全国のがん診療連携拠点病院のうち、研究協力に同意が得られたがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターとした。

冊子配布後のWebアンケートへは、施設内での取り組みにおいて中心的役割を果たした相談員1名に回答を依頼した。

b. 研究デザイン

本研究は、Webアンケート調査による横断的観察研究である。

c. 調査手順

具体的な調査手順は、以下の通りである。

（ア）全国のがん診療連携拠点病院のメーリングリストを通じて、がん相談支援センターの関係者

に調査について案内した。

- (イ) 本調査に関心がある場合、メールに記載されているURLの応募フォームへの登録を依頼した。
- (ウ) 応募フォームより登録された対象施設の担当者(主に、相談員)へ、冊子(100冊)を無料で郵送した。
- (エ) 担当の相談員へは、院内での冊子の配布方法についての検討を依頼した。
- (オ) 冊子の配布後、担当の相談員へWebアンケートの回答フォームURLをメールで送付し、回答を依頼した。

#### d. 調査内容

- ・ 冊子の配布数 (およその数)
- ・ 診断初期の患者もしくはその家族からの相談件数
- ・ 明らかに冊子配布による効果と考えられる相談の有無と相談件数
- ・ 冊子に掲載された情報 (妊孕性、セカンドオピニオン、就労等) の相談の有無
- ・ 冊子配布前後の相談状況や紹介元の変化
- ・ 実際の冊子の配布方法
- ・ 冊子および冊子配布に関する意見 等

#### e. 調査期間

調査期間は、2022年3月～9月であった。

#### d. 分析方法

対象者の特徴を把握するため、すべての調査項目の記述統計量を算出し、各項目の分布をグラフ化して視覚的に確認した。

#### (倫理面への配慮)

本研究は、個人情報収集しないため研究倫理審査には申請しないが、国立がん研究センター研究倫理審査委員会より「審査不要(通知番号:6000-048)」の判断を得て実施した。応募フォーム上に本研究の目的・方法・倫理的配慮を記した説明文を提示し、文書をよく読み、調査協力を検討するよう依頼した。また、施設管理者より調査協力に関する同意文書の提出をもって、本研究の対象施設として登録することとした。

#### C. 研究結果 (参考資料参照)

33施設より調査協力が得られた。病院の種類は、総合病院 (44.8%)、大学病院 (34.5%)、がん専門病院 (17.2%) の順に多かった。がん診療連携拠点病院の種類別は、地域がん診療連携拠点病院 (51.7%)、都

道府県がん診療連携拠点病院 (41.4%) が主であった。

冊子配布数は、1～50部と51～100部 (それぞれ34.5%) が主であった。本調査では100冊を無料で提供したが、調査期間中に冊子の一般購入が可能となったため、100冊を超える冊数を配布したと回答した施設もあった。冊子配布の前中後では、相談件数に大きな変化は見受けられなかった。

冊子を配布してから、がんと診断されて間もない患者や家族もしくは、治療前の患者や家族からの相談があったと回答した者 (86.2%) がほとんどであり、明確に冊子配布と関連すると思われる相談もあった (1件;20.0%,2件;4.0%,3件;8.0%…10件;4.0%,11件以上16%) との回答であった。全体として少ない件数ではあるが冊子に記載された情報 (妊孕性、セカンドオピニオン、就労等) に関する相談もあり、相談員にとっては明確に冊子配布と関連すると認識されていた。

冊子配布後、相談情報に何らかの変化があったと回答した者は約2割 (17.2%) であり、「相談したい事柄が明確になっている印象を受ける」等といった意見があった。冊子配布後、紹介元に変化があったと回答した者は約1割 (13.8%) おり、「主治医が患者に相談を進めてくれた」「診療科長より外来に置き患者に渡すべきとの助言をもらった」等といった意見があった。

実際の冊子配布方法については、事前準備として相談支援センターの運営会議での担当者による半試合や、院内の委員会において院長・診療部長等の管理者による説明を行った等といった回答が得られた。患者らに冊子を配布する際には、患者や家族が直接手に取って閲覧できる場所に冊子を設置する、医師に加え (認定) 看護師や外来クラークから手渡す等、設置場所や多職種による冊子配布の取り組みについての回答が得られた。

冊子および冊子配布に関する意見として、「冊子を渡して、(医師との) コミュニケーションが円滑になったと思う」「患者自身が (医師へ) 質問しやすいのではないかと思う」といった意見があった。一方、「(医師により) 冊子の渡し方は異なると思う」とし、患者らへ冊子を渡す際の説明や声掛けが必要であるとの意見もあった。また、冊子を配布するための取り組みを通じて、「相談支援センターを周知するためのツールに利用できる」という意見があったが、その効果については評価が必要であるという認識がもたれていた。

#### D. 考察

本研究では、がんと診断されて間もない人への情報提供のために作成された資材である冊子を、適切な時期に対象となるがん患者とその家族へ届けるため、院内での冊子の配布方法について、がん相談支援センターの相談員を中心とする現場の実務者の視点を通じて検討した。

冊子配布前後の相談件数には大きな変化は見受けられなかったが、調査に参加した相談員らは、冊子配布後にがんと診断されて間もない時期や治療前にある患者や家族からの相談があったと回答し、少ない件数ではあるが冊子に記載された情報に関する相談もあり、明確に冊子配布と関連すると認識していた。また冊子配布後、相談者の様子や院内の医師の対応に変化があったとの意見もあった。これらは、冊子配布の効果と考えられ、冊子を作成した目的（相談支援センターの周知や主治医や医療者とのコミュニケーションの手掛かりとする）は果たすことができていると評価できた。

冊子配布の具体的な方法については、事前準備として院内での運営会議や委員会といった場で院長・診療部長等の管理者から冊子配布の目的を説明する等、組織的に取り組んでいる様子が伺えた。冊子配布および相談支援センターの周知を図る上では、多職種、特に医師の協力は不可欠であり、個々の相談員が対応するには限界がある。相談員らが施設管理者の理解を得て適切なサポートを受けるためには、組織の体制を整備するための働きかけが重要である。

今後、本調査で得られたデータの詳細な分析と相談支援センターの相談員へのヒアリング等により冊子配布の好事例の収集や活用促進に向けた課題抽出等の検討を重ねる予定である。がん患者およびその家族が冊子を手に取り必要な情報を得て、診断初期から相談支援センターを利用でき適切なサポートが受けられるよう、環境を整備することが求められる。

#### E. 結論

がんと診断されて間もない時期や治療前にある患者や家族からの相談の中には、冊子に記載された情報に関する相談があり、相談者や医師の対応にも変化がみられ冊子配布の効果と評価できた。冊子を配布する際には、施設管理者（院長・診療科部長など医師）から冊子配布の目的を説明する等、組織的な取り組みがなされていた。

冊子の配布・活用を促進し、相談支援センターの周知を図る上では、相談員らが施設管理者の理解を得

て適切なサポートが受けられるよう、組織の体制を整備するための働きかけが重要であると考えられた。

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

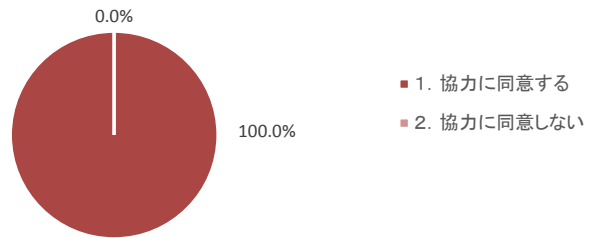
## 「診断されて間もない人への情報提供資材」の評価・活用に関するアンケート調査

「診断されて間もない人への情報提供資材（冊子）」を活用いただいたご感想やご意見をアンケートにてお伺いいたします。  
アンケートは20～30分程で回答できますので、ぜひご協力ください。

以下、設問の太枠内 に回答をご記入ください。  
あてはまる数字のいずれかを選びチェックして下さい。( )内には具体的な内容を記載してください。

### ◆ 本アンケート調査について

選択肢	回答数	%
1. 協力に同意する	29	100.0
2. 協力に同意しない	0	0.0



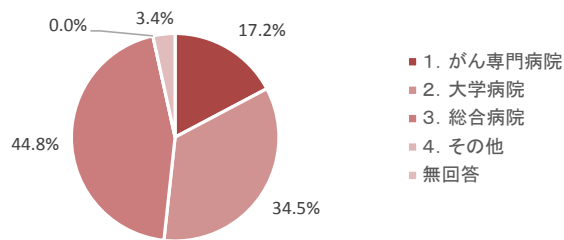
本アンケートで得られた結果は、各施設での冊子の配布方法や良かったと思ったことなど好事例としてまとめ、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会「情報提供・相談支援部会」で共有させていただきます。その際、施設名と併せて公表し、がん相談に関わる関係者の皆さまで情報交換していただくことを企図しております。予めご了承ください。

◆ 病院名	※必須	非掲載
◆ 部署名	※必須	非掲載

### 1. 貴施設についてお尋ねします。※1)～2) 必須

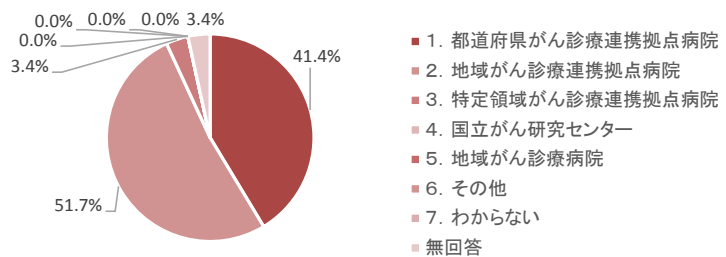
#### 1) 病院の種類

選択肢	回答数	%
1. がん専門病院	5	17.2
2. 大学病院	10	34.5
3. 総合病院	13	44.8
4. その他	0	0.0
無回答	1	3.4



#### 2) がん診療連携拠点病院の種別

選択肢	回答数	%
1. 都道府県がん診療連携拠点病院	12	41.4
2. 地域がん診療連携拠点病院	15	51.7
3. 特定領域がん診療連携拠点病院	1	3.4
4. 国立がん研究センター	0	0.0
5. 地域がん診療病院	0	0.0
6. その他	0	0.0
7. わからない	0	0.0
無回答	1	3.4

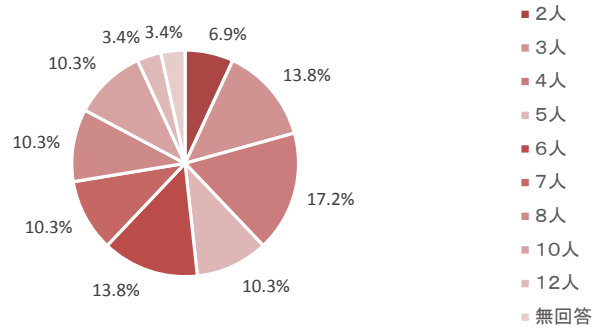


1) 国立がん研究センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」について

※ 以下に該当する人数を記載してください。

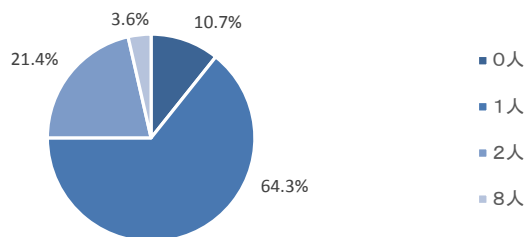
■(1)~(3)の修了者

選択肢	回答数	%
2人	2	6.9
3人	4	13.8
4人	5	17.2
5人	3	10.3
6人	4	13.8
7人	3	10.3
8人	3	10.3
10人	3	10.3
12人	1	3.4
無回答	1	3.4



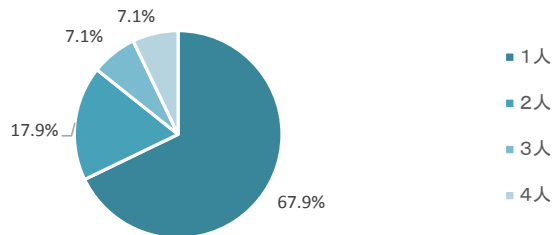
うち相談支援に携わる者の専任の人数 (n=28)

選択肢	回答数	%
0人	3	10.7
1人	18	64.3
2人	6	21.4
8人	1	3.6



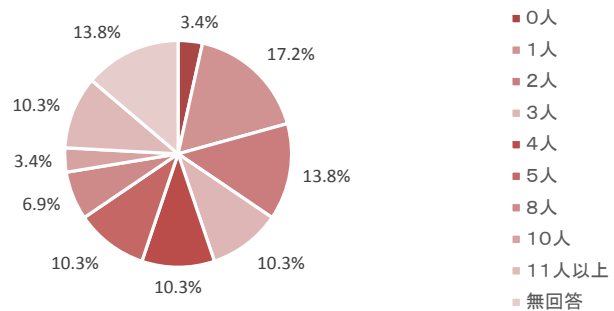
うち相談支援に携わる者の専従の人数 (n=28)

選択肢	回答数	%
1人	19	67.9
2人	5	17.9
3人	2	7.1
4人	2	7.1



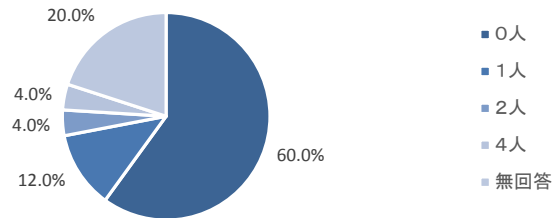
■(1)および(2)の修了者

選択肢	回答数	%
0人	1	3.4
1人	5	17.2
2人	4	13.8
3人	3	10.3
4人	3	10.3
5人	3	10.3
8人	2	6.9
10人	1	3.4
11人以上	3	10.3
無回答	4	13.8



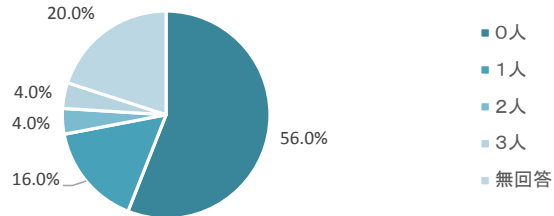
うち相談支援に携わる者の専任の人数 (n=25)

選択肢	回答数	%
0人	15	60.0
1人	3	12.0
2人	1	4.0
4人	1	4.0
無回答	5	20.0



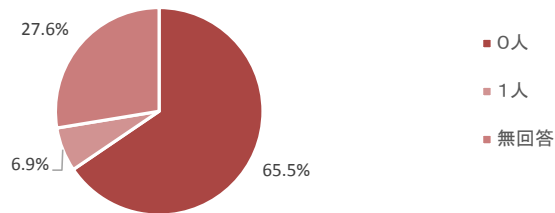
うち相談支援に携わる者の専従の人数 (n=25)

選択肢	回答数	%
0人	14	56.0
1人	4	16.0
2人	1	4.0
3人	1	4.0
無回答	5	20.0



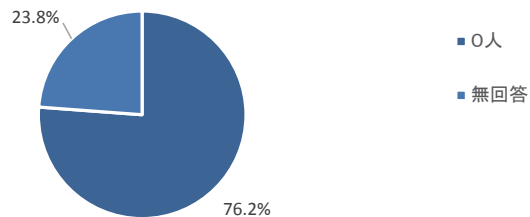
■(1)のみの修了者

選択肢	回答数	%
0人	19	65.5
1人	2	6.9
無回答	8	27.6



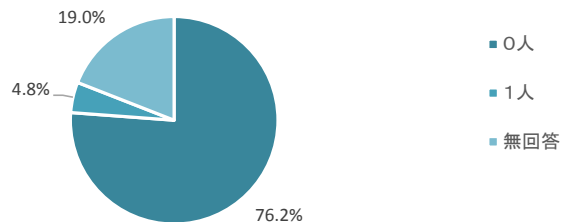
うち相談支援に携わる者の専任の人数 (n=21)

選択肢	回答数	%
0人	16	76.2
無回答	5	23.8



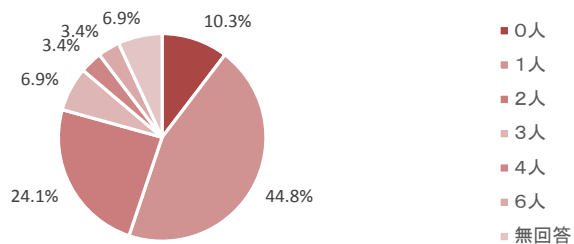
うち相談支援に携わる者の専従の人数 (n=21)

選択肢	回答数	%
0人	16	76.2
1人	1	4.8
無回答	4	19.0



■ 転院や退院調整の業務担当とは別に、がん相談に専従している相談支援センターの相談員数

選択肢	回答数	%
0人	3	10.3
1人	13	44.8
2人	7	24.1
3人	2	6.9
4人	1	3.4
6人	1	3.4
無回答	2	6.9



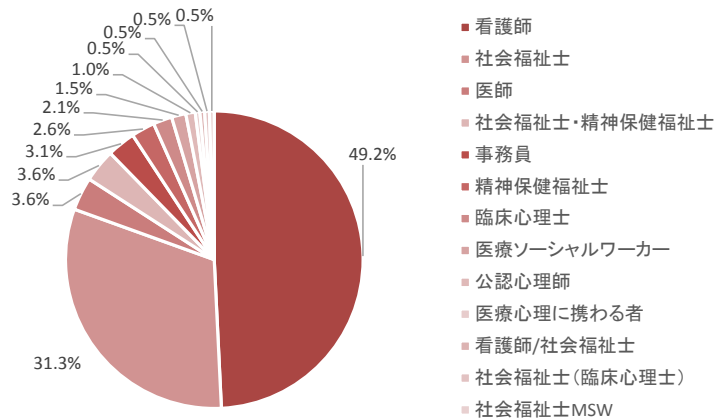
2) 相談支援センターの体制について ※必須

※ 以下の例に沿って、該当する職種・常勤/非常勤・専従/専任/兼任・人数を記載してください。

★2) については、全回答119件を情報別に結合し、回答情報を「195人」に分割の上、集計いたしました。

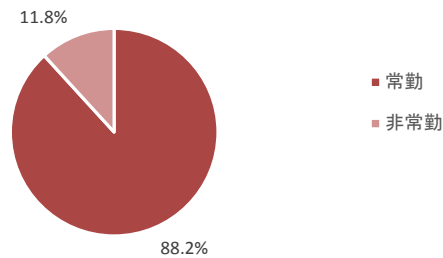
該当する職種（人数）

選択肢	回答数	%
看護師	96	49.2
社会福祉士	61	31.3
医師	7	3.6
社会福祉士・精神保健福祉士	7	3.6
事務員	6	3.1
精神保健福祉士	5	2.6
臨床心理士	4	2.1
医療ソーシャルワーカー	3	1.5
公認心理師	2	1.0
医療心理に携わる者	1	0.5
看護師/社会福祉士	1	0.5
社会福祉士（臨床心理士）	1	0.5
社会福祉士MSW	1	0.5



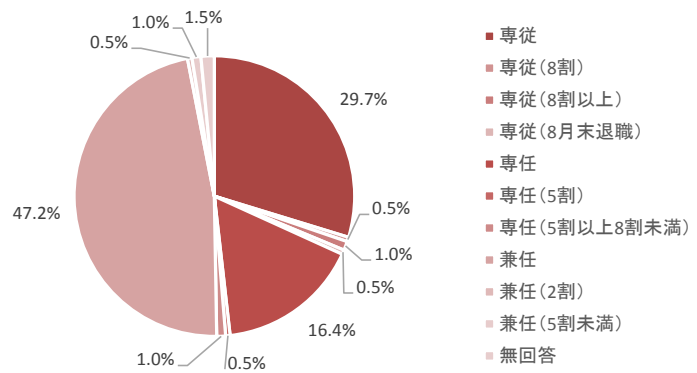
常勤/非常勤（人数）

選択肢	回答数	%
常勤	172	88.2
非常勤	23	11.8



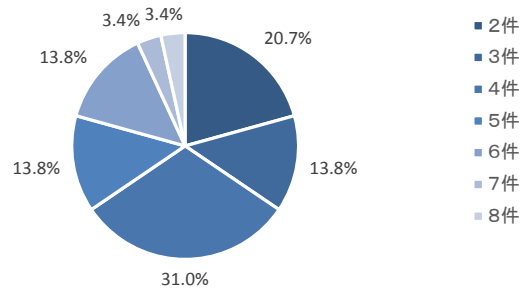
専従/専任/兼任（人数）

選択肢	回答数	%
専従	58	29.7
専従（8割）	1	0.5
専従（8割以上）	2	1.0
専従（8月末退職）	1	0.5
専任	32	16.4
専任（5割）	1	0.5
専任（5割以上8割未満）	2	1.0
兼任	92	47.2
兼任（2割）	1	0.5
兼任（5割未満）	2	1.0
無回答	3	1.5



※参考データ：施設単位の掲載数

選択肢	回答数	%
2件	6	20.7
3件	4	13.8
4件	9	31.0
5件	4	13.8
6件	4	13.8
7件	1	3.4
8件	1	3.4



3. 「診断されて間もない人への情報提供資材（冊子）」の配布状況についてお尋ねします。※1)~2) 必須

1) 冊子を配布した期間（日付）を教えてください。

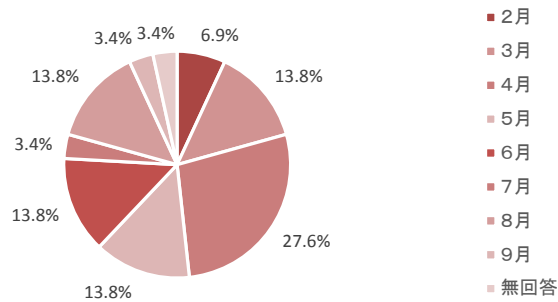
※ 以下の（ ）内に該当する日付を記載してください。現在配布中の場合は○をしてください。

2022年（ ）月（ ）日～（ ）月（ ）日まで

もしくは 現在配布中

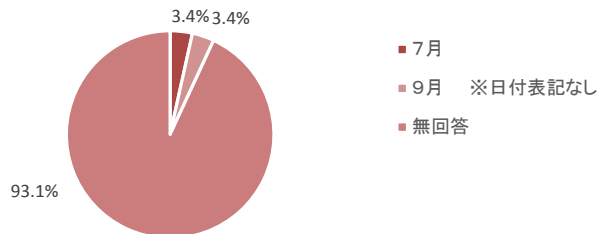
開始月

選択肢	回答数	%
2月	2	6.9
3月	4	13.8
4月	8	27.6
5月	4	13.8
6月	4	13.8
7月	1	3.4
8月	4	13.8
9月	1	3.4
無回答	1	3.4



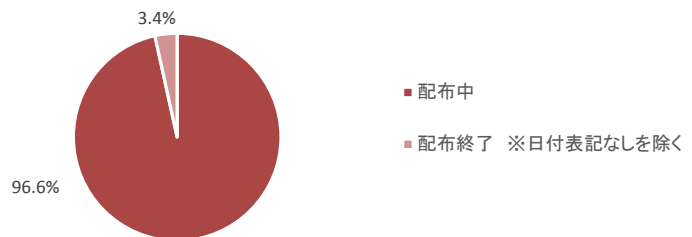
終了月

選択肢	回答数	%
7月	1	3.4
9月 ※日付表記なし	1	3.4
無回答	27	93.1



配布状態

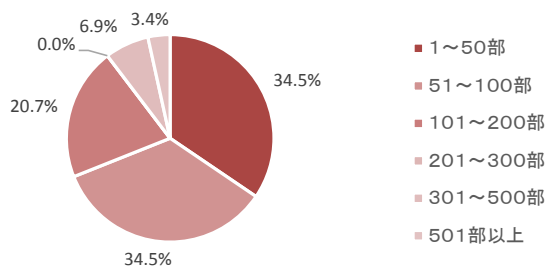
選択肢	回答数	%
配布中	28	96.6
配布終了 ※日付表記なしを除く	1	3.4



2) 冊子の配布数を教えてください。(現在配布中の場合は、2022年9月1日までの配布数をご記入ください。)

冊子配布数

選択肢	回答数	%
1～50部	10	34.5
51～100部	10	34.5
101～200部	6	20.7
201～300部	0	0.0
301～500部	2	6.9
501部以上	1	3.4



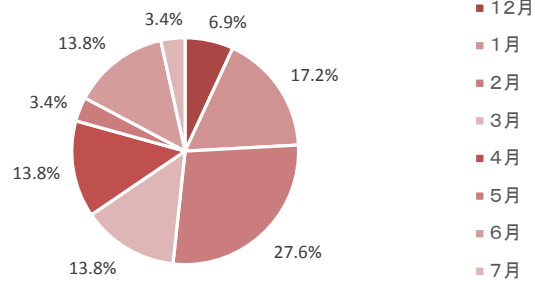


4. 冊子を配布した前後の相談件数についてお尋ねします。 ※1)～3) 必須

1) 冊子を配布する前の直近2か月間について、相談件数を教えてください。

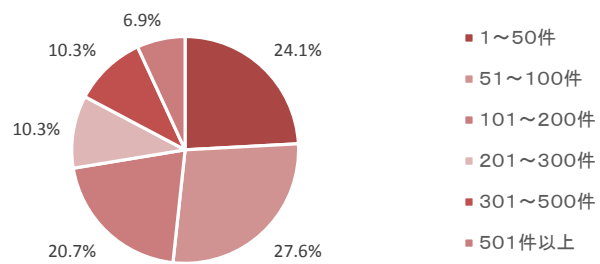
■冊子を配布する前の2か月間

選択肢	回答数	%
1 2月	2	6.9
1月	5	17.2
2月	8	27.6
3月	4	13.8
4月	4	13.8
5月	1	3.4
6月	4	13.8
7月	1	3.4



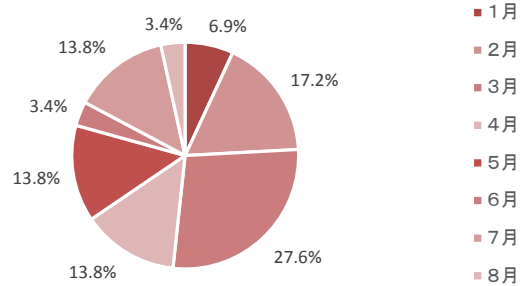
■相談件数

選択肢	回答数	%
1～50件	7	24.1
51～100件	8	27.6
101～200件	6	20.7
201～300件	3	10.3
301～500件	3	10.3
501件以上	2	6.9



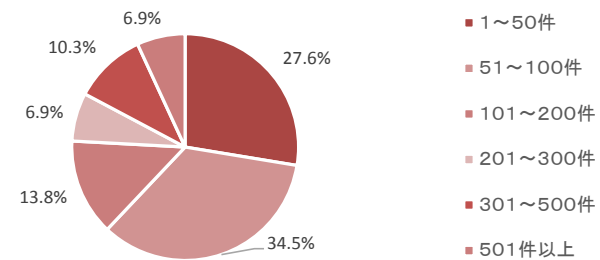
■冊子を配布する前の2か月間

選択肢	回答数	%
1月	2	6.9
2月	5	17.2
3月	8	27.6
4月	4	13.8
5月	4	13.8
6月	1	3.4
7月	4	13.8
8月	1	3.4



■相談件数

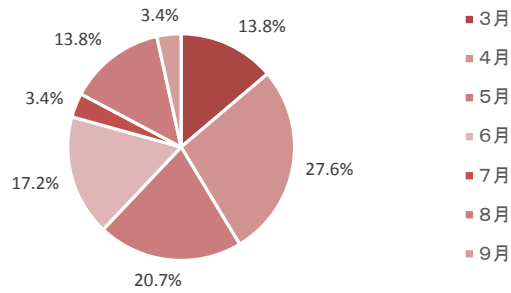
選択肢	回答数	%
1～50件	8	27.6
51～100件	10	34.5
101～200件	4	13.8
201～300件	2	6.9
301～500件	3	10.3
501件以上	2	6.9



2) 冊子を配布していた2か月間について、相談件数を教えてください。

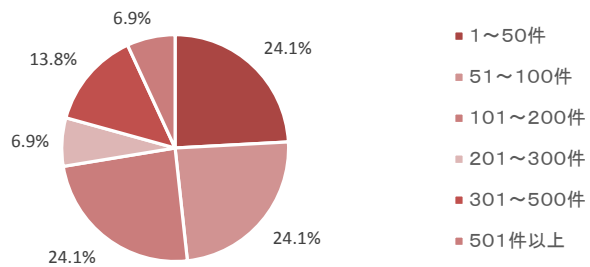
■ 冊子を配布していた2か月間

選択肢	回答数	%
3月	4	13.8
4月	8	27.6
5月	6	20.7
6月	5	17.2
7月	1	3.4
8月	4	13.8
9月	1	3.4



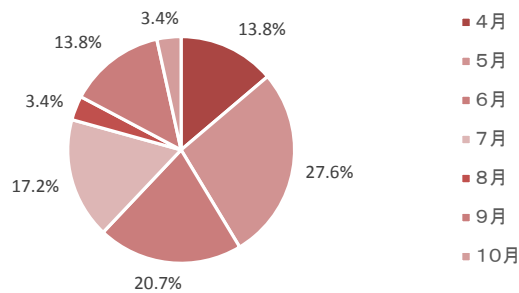
■ 相談件数

選択肢	回答数	%
1～50件	7	24.1
51～100件	7	24.1
101～200件	7	24.1
201～300件	2	6.9
301～500件	4	13.8
501件以上	2	6.9



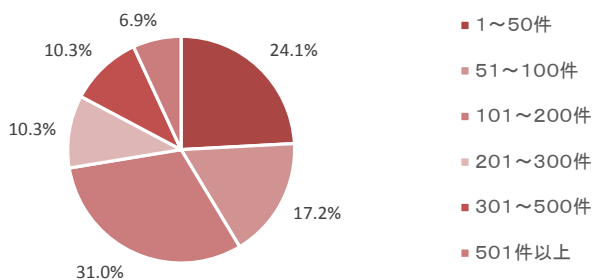
■ 冊子を配布していた2か月間

選択肢	回答数	%
4月	4	13.8
5月	8	27.6
6月	6	20.7
7月	5	17.2
8月	1	3.4
9月	4	13.8
10月	1	3.4



■ 相談件数

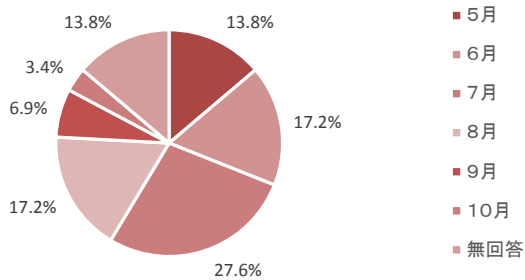
選択肢	回答数	%
1～50件	7	24.1
51～100件	5	17.2
101～200件	9	31.0
201～300件	3	10.3
301～500件	3	10.3
501件以上	2	6.9



3) 冊子を配布した後の直近2か月間について、相談件数を教えてください。

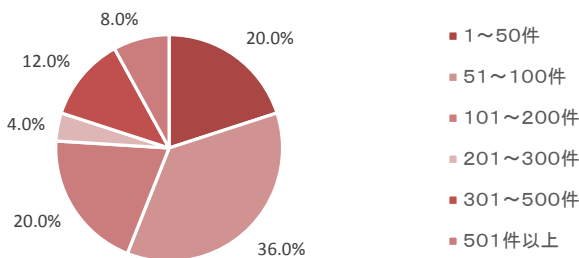
■ 冊子を配布していた2か月間

選択肢	回答数	%
5月	4	13.8
6月	5	17.2
7月	8	27.6
8月	5	17.2
9月	2	6.9
10月	1	3.4
無回答	4	13.8



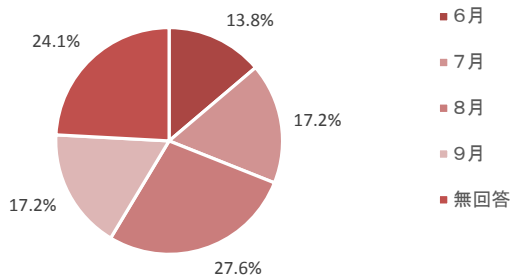
■ 相談件数

選択肢	回答数	%
1～50件	5	20.0
51～100件	9	36.0
101～200件	5	20.0
201～300件	1	4.0
301～500件	3	12.0
501件以上	2	8.0



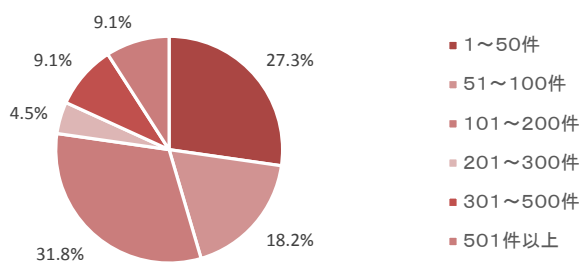
■ 冊子を配布していた2か月間

選択肢	回答数	%
6月	4	13.8
7月	5	17.2
8月	8	27.6
9月	5	17.2
無回答	7	24.1



■ 相談件数

選択肢	回答数	%
1～50件	6	27.3
51～100件	4	18.2
101～200件	7	31.8
201～300件	1	4.5
301～500件	2	9.1
501件以上	2	9.1

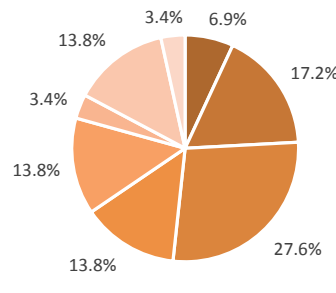


【参考情報】

1) 冊子を配布する前の直近2か月間について、相談件数を教えてください。

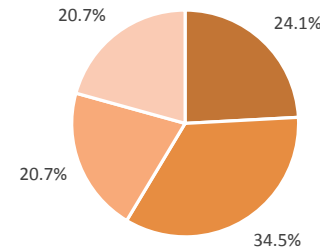
■ 冊子を配布する前の2か月間

選択肢	回答数	%
12・1月	2	6.9
1・2月	5	17.2
2・3月	8	27.6
3・4月	4	13.8
4・5月	4	13.8
5・6月	1	3.4
6・7月	4	13.8
7・8月	1	3.4



■ 相談件数

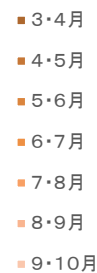
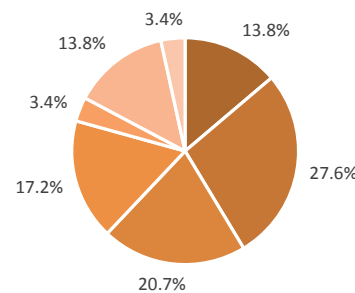
選択肢	回答数	%
100件以下	7	24.1
101～200件	10	34.5
201～500件	6	20.7
501件以上	6	20.7



2) 冊子を配布していた2か月間について、相談件数を教えてください。

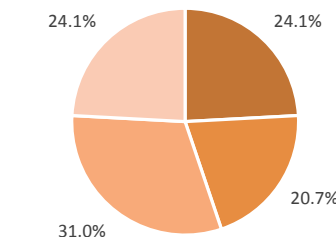
■ 冊子を配布する前の2か月間

選択肢	回答数	%
3・4月	4	13.8
4・5月	8	27.6
5・6月	6	20.7
6・7月	5	17.2
7・8月	1	3.4
8・9月	4	13.8
9・10月	1	3.4



■ 相談件数

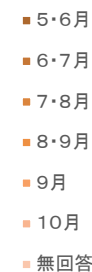
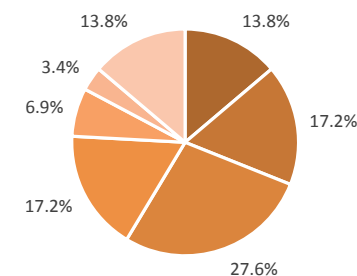
選択肢	回答数	%
100件以下	7	24.1
101～200件	6	20.7
201～500件	9	31.0
501件以上	7	24.1



3) 冊子を配布した後の直近2か月間について、相談件数を教えてください。

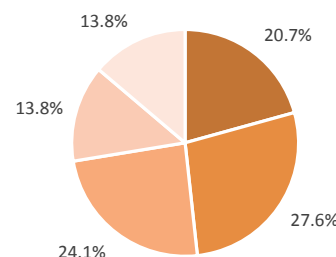
■ 冊子を配布していた2か月間

選択肢	回答数	%
5・6月	4	13.8
6・7月	5	17.2
7・8月	8	27.6
8・9月	5	17.2
9月	2	6.9
10月	1	3.4
無回答	4	13.8



■ 相談件数

選択肢	回答数	%
100件以下	6	20.7
101～200件	8	27.6
201～500件	7	24.1
501件以上	4	13.8
無回答	4	13.8



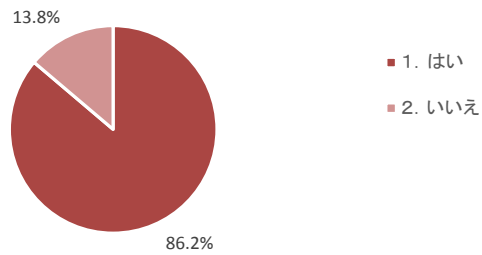
5. 冊子に記載されている内容についての相談状況についてお尋ねします。 ※1)~4) 必須

1) ~ 4) 該当する数字に○をつけてください。「1. はい」と回答した方は相談件数をご記入ください。

1) 冊子を配布してから、がんと診断されて間もない患者さんやご家族もしくは、治療前の患者さんやご家族からの相談はありましたか。

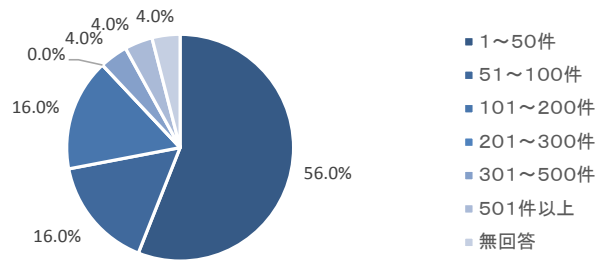
■相談の有無

選択肢	回答数	%
1. はい	25	86.2
2. いいえ	4	13.8



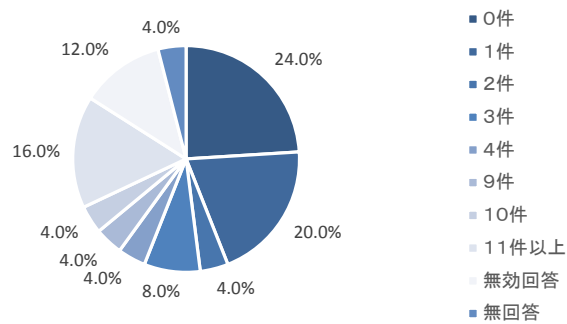
■相談件数 (n=25)

選択肢	回答数	%
1~50件	14	56.0
51~100件	4	16.0
101~200件	4	16.0
201~300件	0	0.0
301~500件	1	4.0
501件以上	1	4.0
無回答	1	4.0



■そのうち明確に冊子配布と関連すると思われる相談※の件数 (n=25)

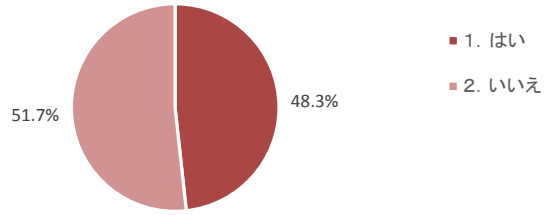
選択肢	回答数	%
0件	6	24.0
1件	5	20.0
2件	1	4.0
3件	2	8.0
4件	1	4.0
9件	1	4.0
10件	1	4.0
11件以上	4	16.0
無効回答	3	12.0
無回答	1	4.0



2) 冊子を配布してから、がんと診断されて間もない患者さんやご家族もしくは、治療前の患者さんやご家族から、妊孕性に関する相談はありましたか。

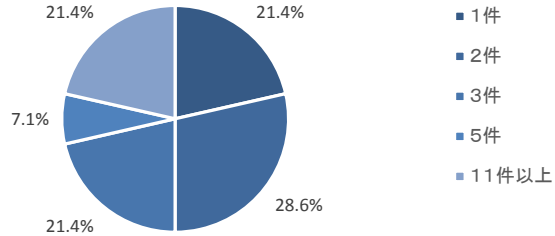
■相談の有無

選択肢	回答数	%
1. はい	14	48.3
2. いいえ	15	51.7



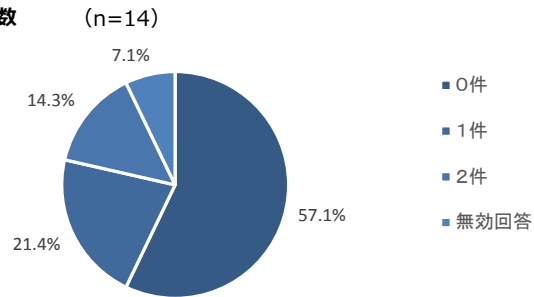
■相談件数 (n=14)

選択肢	回答数	%
1件	3	21.4
2件	4	28.6
3件	3	21.4
5件	1	7.1
11件以上	3	21.4



■そのうち明確に冊子配布と関連すると思われる相談※の件数 (n=14)

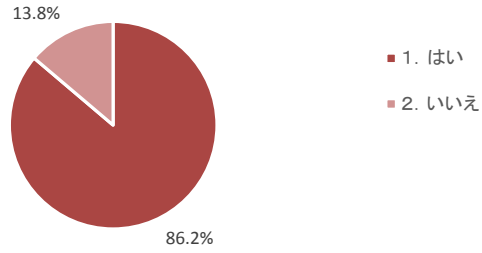
選択肢	回答数	%
0件	8	57.1
1件	3	21.4
2件	2	14.3
無効回答	1	7.1



3) 冊子を配布してから、がんと診断されて間もない患者さんやご家族もしくは、治療前の患者さんやご家族から、セカンドオピニオンに関する相談はありましたか。

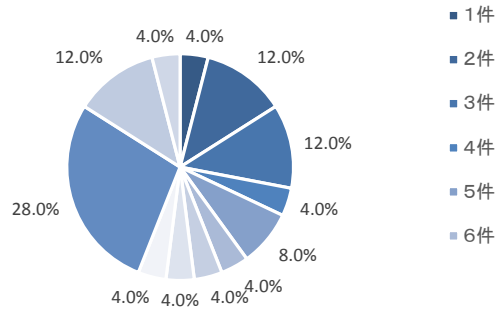
■相談の有無

選択肢	回答数	%
1. はい	25	86.2
2. いいえ	4	13.8



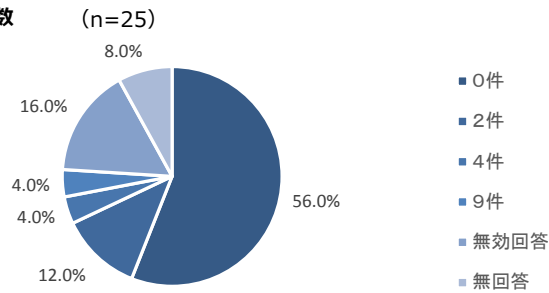
■相談件数 (n=25)

選択肢	回答数	%
1件	1	4.0
2件	3	12.0
3件	3	12.0
4件	1	4.0
5件	2	8.0
6件	1	4.0
7件	1	4.0
8件	1	4.0
9件	1	4.0
11~50件	7	28.0
51件以上	3	12.0
無回答	1	4.0



■そのうち明確に冊子配布と関連すると思われる相談※の件数 (n=25)

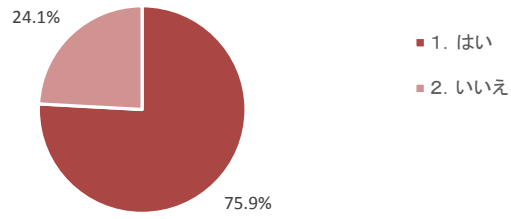
選択肢	回答数	%
0件	14	56.0
2件	3	12.0
4件	1	4.0
9件	1	4.0
無効回答	4	16.0
無回答	2	8.0



4) 冊子を配布してから、がんと診断されて間もない患者さんやご家族もしくは、治療前の患者さんやご家族から、就労に関する相談はありましたか。

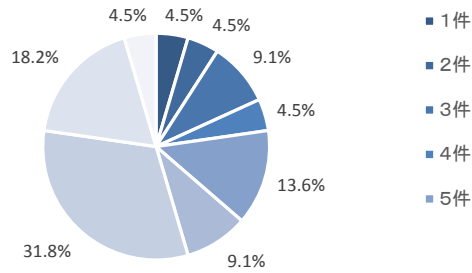
■ 相談の有無

選択肢	回答数	%
1. はい	22	75.9
2. いいえ	7	24.1



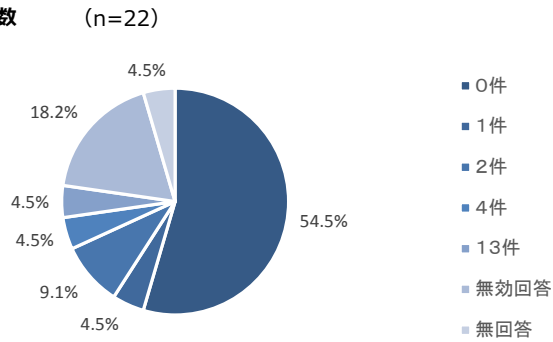
■ 相談件数 (n=22)

選択肢	回答数	%
1件	1	4.5
2件	1	4.5
3件	2	9.1
4件	1	4.5
5件	3	13.6
7件	2	9.1
11~50件	7	31.8
51件以上	4	18.2
無回答	1	4.5



■ そのうち明確に冊子配布と関連すると思われる相談※の件数 (n=22)

選択肢	回答数	%
0件	12	54.5
1件	1	4.5
2件	2	9.1
4件	1	4.5
13件	1	4.5
無効回答	4	18.2
無回答	1	4.5

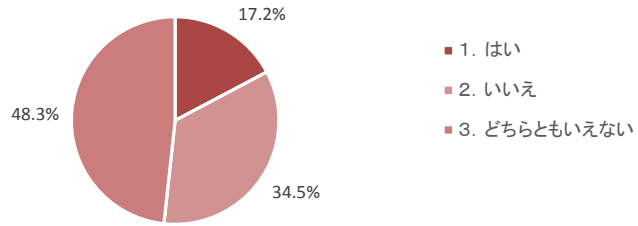


※ 1)~4) 回答欄の「そのうち明確に冊子配布と関連すると思われる相談」とは、患者さんやご家族が冊子を持参した、「冊子を見て（相談支援センターに）来た」と言っていた等、今回の冊子配布と関連すると思われるケースを指します。



1) 相談者の状況や相談内容に、何か変化はあったと思いますか。

選択肢	回答数	%
1. はい	5	17.2
2. いいえ	10	34.5
3. どちらともいえない	14	48.3



2) 上記1)で「1. はい」とお答えいただいた方にお伺いします。

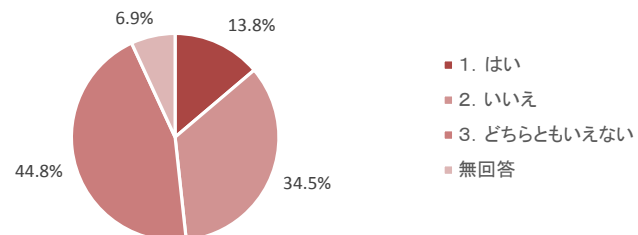
どのような変化がありましたか。具体的に教えてください。(個人情報は記載しないでください。)

(n=5)

- 相談したい事柄が明確になっている印象を受ける。
- 冊子によりがんと診断されることで生じる不安を知って来訪されるので、漠然とした不安が明確化された相談に変わったように思う。  
乳がんの患者さんは、医師や看護師が不安の強い患者さんに直接声を掛けられ、誘導により来室していることが多く、この期間内で冊子の変化が感じられにくい側面もあった。
- 確定診断前の相談や治療方法、治療場所の相談が増えた  
院内がん登録やがんの統計データを調べてから相談に来る人が増えた  
診療ガイドラインを用いて相談対応することが増えた  
自施設の治療成績や他施設との比較・ちがいを把握して対応する必要性が高まった
- ・主治医からがん相談支援センターへの相談を勧められたと来所された人がいた。  
・治療開始前に相談に来られた。
- 冊子をもって、がん相談支援センターに来られた方がおられた。

3) 冊子を配布してから、紹介元に変化はあったと思いますか。

選択肢	回答数	%
1. はい	4	13.8
2. いいえ	10	34.5
3. どちらともいえない	13	44.8
無回答	2	6.9



4) 上記3)で「1. はい」とお答えいただいた方にお伺いします。

紹介元にどのような変化がありましたか。具体的に教えてください。(個人情報は記載しないでください。)

(n=4)

- 病棟からも相談が来るようになった。医療者ががん相談支援センターの役割を改めて知る機会になり、医療福祉関係者(病棟、外来、サポートセンターなど)からの相談も増えた。
- ・主治医が患者に相談を勧めてくれた。  
・診療科の看護師が紹介してくれるようになった。
- 冊子を渡しながら具体的にどんな相談ができるか伝えられるようになった。
- 「冊子」を見たある診療科科長より「外来に置き患者に渡すべき」と助言をもらった。

1) 今回、どのように冊子を配布しましたか。※A,B必須

A. 冊子配布の準備(導入前)について、具体的に教えてください。

(n=28)

- ①院内のがん診療管理委員会での報告、「質の高い相談支援の提供に資する研究」協力への報告(内容等)
  - ②がん相談支援センター内での確認。
  - ③医師への説明の計画
- ・ICに同席する認定看護師や専門看護師に、意図やパンフレット内容を説明した
  - ・外科、呼吸の診療科へ協力依頼した
  - ・総合相談支援センター内相談員へ説明した
- 管理会議でがん相談支援センター長から冊子の説明を行い、配布について説明した。
- ・相談支援センター長から、がん看護外来、入退院サポート室へ配布する際、口頭で説明し活用を依頼した
  - ・総合支援センター部長から消化器内科、乳腺外科の医長等、治療事務補助員へ口頭で説明、活用を依頼した
- 院内プリントセンターでの印刷(費用)を病院管理課・事務部門と交渉した。外来及び入退院支援部門の管理者(医療支援センター)に導入の意図を説明し、冊子の内容を紹介した。外来の各診察室と医療支援センターで手渡しで渡していただく体制を整えた。各診療科医師が参加するカンサーボード、がん薬物療法の会議で「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと(冊子)」医療支援センターで入院問診をされる患者さんへの配布連携を整えたこと、患者さんから相談支援センターのがあることをもう少し早く知りたかったとの声が聞かれる事もあり、診断の際に医師からも患者さんへ冊子を渡すなど相談支援センターの紹介について、ぜひ協力頂きたいとお願いした。
- ・緩和ケアチーム、緩和専従医師へ資料の説明・配布のお願いを行った。
  - ・各診療外来看護師へ資料の説明、配布のお願いを行った。
  - ・緩和ケア認定看護師、放射線療法認定看護師に協力をお願いした。
- ・やさしいがんの知識
  - ・もしもがんと言われたら
  - ・がんと診断されたあなたに知ってほしいこと
  - ・家族ががんになったときなどの冊子で対応していた
- がん相談支援センター運営委員会で冊子配布方法を検討した。院長は医師。
  - ・がん相談支援センター運営委員会から、経営会議、診療部長会議、医局回、師長会、外来朝会に文書と口頭で冊子配布の協力依頼をしました。院内グループウェアで全職員に冊子の活用に関する説明文と動画を一斉配信しました。
- ①病院執行部に今回のアンケート調査協力、及び冊子配布の承認を得て
  - ②承認後に院内のがん拠点病院院内競技委員会と、外来診療業務検討委員会で冊子配布の協力を依頼した。がん相談支援センタースタッフでも、100冊を効果的に配布する方法を検討。相談件数の多い5大がん+前立腺がん+血液がんを診療している診療科に配布依頼することとした。
- 院内のがん相談会議にて、配布の仕方について相談。外来の診察場面で主治医から患者へ渡すというのはこれまでの経験から難しいということになり、以前より作成・配布していた紹介カードを主治医から患者へ渡してもらい、がん相談支援センターに来室された方に冊子を配布するという方法を取っていくことになった。
- ・各外来の看護師代表
  - ・告知時説明に同席することが多い認定看護師に冊子を読んでもらい、診断初期に患者に手渡してもらいたいことを伝え配布を依頼
- 5月～7月にかけて多職種で構成される院内の会議(外来運営会議・病棟運営・地域医療連携会議・就労支援検討会議・アピアランスサポートセンター運営会議)で、冊子の広報と周知を図った。診断ごまもない患者に対し医師より冊子を渡すことを会議で承認を得て、各診療科のブースに冊子を配架した。また医療局長から医師へ冊子の広報と患者への配布に関する取り組みについて周知し、協力依頼を行った。
- ・冊子の用意
  - ・配布方法の検討(告知の場面に同席する認定NsがDrから渡してくれるよう伝える)(認定Nsが同席することの多い診療科から始める)
- がん関連委員会、看護部会議  
会議資料と冊子配布し、活用説明
- がん相談支援センターのメンバーで、冊子の内容を熟読し、ディスカッションした。
- ①がん相談時に直接手渡し対応(設置)。診断され間もないIC前、今後の不安、医師への診療時の質問の仕方等、相談者は対象として渡す
  - ②乳腺外来説明室担当者へも依頼(設置)
- 外来部門の師長へ冊子について説明し、外来各診療科で行っている1回/月の医師と看護師のミーティングに出席し、がん診断時に配布するよう説明する機会をつくった。
- がんに関する会議の中で冊子について説明を行った。後日、会議に参加された方に配布をしていただけるかメールで確認を行い、協力していただける医師に配布の依頼を行った。
- 動画視聴
- 冊子配布前の医師向けの説明会の参加については院内のコロナ感染者多発の時期と重なり医師の参加が困難であった。その後がん相談支援センターに研究参加の案内があり参加した。医師は説明会に参加していなかった為、外来の看護師が渡せないかと検討した。
- 外来外科主治医より初診患者に直接説明して渡す。
- がん相談支援センターの運営会議にて配布方法等について話し合った。患者さんの心理状態によっては、冊子を渡されることでかえって落胆や不安を強くさせてしまうことが考えられた。全員ではなく、状況に合わせた対応をしていく。できるだけ多くの方、また、どなたでも手に取れるよう、エントランスや待合に設置する。

- がん診療を行っている診療科の看護師にがんと診断された患者さんに主治医もしくは看護師から渡してもらうように説明し配布した。
- 病院運営会議で冊子の配布を病院長から周知していただいた
- 研究参加についての可否および決済手順を医学部研究協力室に諮った
  - ・がん相談支援センターセンター長、師長にセンター会議で研究参加について説明
  - ・看護師スタッフに知ってもらうため、全部署に1冊ずつ配布する事を決定
  - ・がん告知を受けた患者の対応をする外来患者サポートセンター、外来化学療法室に「冊子」を10冊ずつ配布し、診療科は特定せず、看護師より手渡してもらう事に決定
- 1. 医師への周知・理解
  - ① 幹部および主たる診療科長（10名）での試行：国がんアンケートへの協力依頼をおこなった。
  - ② 診療科運営会議での紹介、協力依頼（冊子作成の経緯、内容、手渡す場面等について説明）し、各診療科長に周知のうえ、全医師への天たつを行った。
  - ③ プロモーションビデオの紹介・供覧：診療科運営会議で各診療科長と供覧し、医師への伝達を行った。院内e-learningシステムに紹介動画を掲載し、各医師に直接周知。視聴履歴を確認し、周知徹底を図った。
- まずは、腫瘍内科、乳腺外科に限っての冊子配布を検討し、科長に冊子配布について説明をし協力を依頼した。
- ① がん相談支援センター内および関係会議で検討
  - ② 診療部長会でがん診療連携拠点病院連絡協議会活動報告・冊子紹介

## B. 冊子配布方法（導入）について、具体的に教えてください。

(n=28)

- ① 院内複数箇所（写真参照）への設置（診察室前に出来るだけ数多く設置できるようクリアケース・マグネット等を利用）
  - ※今後の予定
  - ① 各診療科の告知の場に同席する看護職への案内及び周知
  - ② 2022年7月より開始しておりますが、年2回開催しております。緩和ケア研修会（PEACEプロジェクト）での参加者への冊子の説明配布。
- ・がんと診断されるIC時に同席した看護師が配布する
  - ・診療科のDrからがんと診断された間もない人へ配布するよう、診療科外来へ設置した
  - ・外来クラークからDrの指示により配布することもあった
  - ・相談室の窓口にパンフレットを設置し、患者や家族が手にとることができるようにした
- 100冊をがんセンター内の6診療科に分けて（10～20冊）、部長に再度声かけながら外来に配布した。外来の看護係長にも説明した。
- 試験的にがん告知をした医師より患者へ渡し、相談支援センターを案内する
- 各診療科医師に診断時に配布してもらう。一部は冊子を机上・壁設置した。医療支援センターで、診断された直後の方が多くもあり、入院時説明の際、看護師から手渡してもらう。
- ・医師から患者・家族に直接手渡してきているのは一部の医師のみ
  - ・ほとんど緩和ケア認定看護師から渡している事が多い
  - ・外来やがん相談支援センターの情報コーナーへ設置、配布している
- がん後口のIC時に認定看護師より手渡している
- 外来の朝会で各科外来の看護師に説明をして冊子を持って行ってもらった。外科外来など協力的な科には直接出向いて各診察室に置かせてもらった。医局にあるDrの個人メールBOXに冊子と協力依頼の文書を棚入れしました。協力的な科からは追加依頼の連絡があり、冊子を診察室に補充しました。動画を見た病棟看護師から冊子の請求があり、数冊渡しました。
- 外来管理師長より、依頼分と冊子を5大がん+前立腺Ca+血液がんを診療している8診療科のリーダー看護師に説明して配布依頼もらった。
- 今年度から年代別の資料配布を検討し、準備していたため、冊子をその中に含めて配布することにした。
- 各科外来
  - ・外来看護師から手渡し
  - ・外来待合室のラックに配架
  - 1Fフロアの待合室のラックに配架（他の冊子類より、早いペースで持ち帰られていた）
- 6月15日～情報コーナーに冊子を配架
- 8月12日～各診療科のブースに冊子を配架、必要な患者へ医師より配布を始める
- ・特定の診療科に冊子を配布する
  - ・認定Nsに配布の経緯を説明しDrから渡してもらうようにする
  - ・冊子スタンドにおく（1F正面玄関、2F外来診療場の間、集学的がん診療センター前）
- ・がん相談来室者、AYA世代がん患者、初回治療、入院前
  - ・耳鼻科外、腫瘍外来診察室、病状説明後配布
  - ・患者サロンで配布した
- がんと診断された方やご家族が手にとりやすさと考え、まず外来（各科の）に設置したパンフレット台に置き、自由にとりいただけるようにした。
- ① 直に渡す
  - ・冊子内容を読み、見せて活用する様説明した
- ② 希望者に渡す
  - ・常設（マガジンラック）に設置し希望者へ渡す
- 外来各診療科で行うミーティングに参加し、冊子の説明、配布するメリット、がん相談支援センターの利用について説明し、配布することをすすめた。

- ・がんの初診の患者さんへ直接配布を行った。(内科)
- ・外来、入院で対象患者さんに手渡した。(整形)
- ・外来ブースの患者さんの座る席の前に置き、希望に応じて配布した。(乳腺)
- 相談支援センターのラックに設置したり、告知面談同席時にお渡しした。
- 外来の師長やマネージャーと検討し診察についているNsや入院説明を行うNsから冊子を渡すこととした。しかし、渡すタイミングが上手くいかず、渡せないことも多かった。外来からの意見はやはり医師から渡すほうがよいという意見だった。冊子の紹介動画を医師に見てもらう機会を現在調整中である。9/12の新指定要件に関するweb講演会に参加した医師からは冊子の希望があり、一部医師からの配布を開始した。
- 患者サポートセンター長より、部局長会議等で、目的配布方法を説明し、協力を得て開始した。
- ・カウンセリング時、患者さんの様子を見ながら判断して渡すようにした。
  - ・どなたでもご自分のタイミングで手にできるよう、エントランスや外来の待ち合いに設置した。また、「がん」と入っている冊子を手にするところを他の人に見られたくない方も少なくないので、中待ち合いに設置するようにした。
- 診療科ではほとんど渡されていなかった。がんの告知の場面に同席した際に看護師から数人にお渡しした程度となっている。9月に改めて診療科の看護師からでもよいので、冊子を渡してもらうよう依頼した。
- ・がん診療を行っている診療科へ配布し、診療科長から医局長へ周知してもらいました。
- ・外来医長へ冊子を配布し、医師から患者、家族へ渡す体制を整え、冊子が無くなる前にクラークから必要冊子数を依頼してもらっております。
- ・各部署の看護師長に冊子配布について、依頼分とともに必要時補足説明を行い冊子を直接手渡した。
- ・がん相談支援センター前、外来ブースに設置した冊子立てに冊子を掲示した。
- 1.外来診察室での取り組み
  - ①相談支援センターだけで進めるのではなく多部門・多職種の理解を得て取り組むことが重要と考え、院内会議や院内グループウェアを活用して情報発信や説明を行った。
  - ②外来では医師・看護師の協力を得ながら全診察室(40室)に冊子を配置。冊子は一冊毎にがん相談支援センターまでの院内経路を示した案内図リーフレットを挟み、目に入り手に取りやすいように、卓上レターラックに入れて設置した。
 DAIは、新患や診療方針変更時の診察時には医師に冊子配布を声掛ける。
- 腫瘍内科、乳腺外科の2科で、診断された患者に対して主治医から冊子を渡している。がん相談支援センターを案内いただき、診察後に寄られる患者、相談希望時に寄られる患者、家族がいる。
- ・外来病棟運営委員会へ相談
  - ・外来病棟運営委員会へ承認
  - ・外来診察室デスクへの設置+がん情報コーナーへの設置
  - ・医師全員へのメールによる協力依頼
  - ・デジタルサイネージによる職員向け広報
  - ・診療科カンファレンスでの冊子紹介、協力依頼、意見交換

## 2) 冊子配布に関連していると思われる相談者と医師との関わりについて、気づいたことはありますか。

どんな些細なことでも構いません。もしあれば、具体的に教えてください。※任意

(n=16)

- 冊子を通して、コミュニケーションが円滑になったと思われる。
- まだありません。医師から患者へのがん相談支援センターへの紹介方法が「経済的相談が必要なとき」に偏っているように思う。心理的なサポートや就労への不安を抱えていて、その相談が必要な患者をキャッチして支援センターにつなぐという認識が浸透すれば良いと思う。
- 医師から診断や治療の説明後、相談者から質問がない、感情的な反応がない場合、相談窓口など紹介なく診察が終了している。医師が直接配布された方は、がん相談支援センターに相談する場があることを記憶していたり、実際利用して下さる方の割合が高くなる印象がある。
- 患者さん自身が質問しやすいのではないと思う
- 以前から相談支援センターのカードを渡してくれているDrは、冊子を用いてより丁寧に説明してくれています。非協力的な科のDrが冊子を置くことを許可してくれ、がん相談支援センターの案内掲示もさせてくれるようになりました。
- 医師から渡された相談者は、不安の軽減にもつながるが、医師があまり説明せず渡すと、「医師から言われて来たがよく意図がわからず来た」という言葉も聞かれた。『何か困った時や不安な時に相談できる相談センターです』の一言があると良いと思います。
- 医師によると思いますが、告知後、紹介カードを持ってがん相談支援センターに寄せられた患者さんが、告知後そのまま帰らず話ができて良かったと言われ、告知をされた人へのフォローが十分にできていないと感じた。
- ・医師の前では緊張して話せない  
・上手く伝えられない  
・説明内容が判らなくてもうなずいてしまう  
・もう一度聞きたくても言えない
- 配布を開始して間がなく、今のところはないが、医師がすすめることに関しては患者も行動に移すケースが多いと思う。
- 多くの情報や告知をされた患者さんは頭がいっぱいになっており、主治医以外の介入時間がある方がいい。（出来れば冊子を渡して説明する時間も含めて）
- 「何か心配ごとはありませんか」と声かけするのは患者さんや家族改まった感じになり相談し苦い様だが、「これを見ておいてください」と冊子を渡すのは医師も声をかけやすいし、患者さんも自分のタイミングで相談出来るのではないかと医師の意見をもらいました。
- 医師より患者サポートセンター、認定がん相談支援センターで「相談してみたら」と言われて、窓口に来られた患者・家族がおります。
- \* 医師の見解  
・冊子をお渡しした時、患者・家族から感謝の言葉をいただくが、本当にがん相談支援センターの活用に繋がったのか、今の時点ではわからない。今後は配布後の状況を追跡する必要があるように思う。  
・配布時、配布時の渡し方についても医師によって異なると思う。事務的に渡すか、説明や声掛けを行って渡すか、そのあたりも調整が必要かもしれない。
- 現時点ではなし
- なし（2件）

## 3) 冊子配布に関連していると思われる相談者と医療スタッフとの関わりについて、気づいたことはありますか。

どんな些細なことでも構いません。もしあれば、具体的に教えてください。※任意

(n=13)

- 医療スタッフ自身が「がん診断直後」の支援が具体的にどのような事が必要であるかという理解が深まり相談者とのコミュニケーションが円滑になったと思われる。
- 「冊子に相談支援センターのことを知り、相談に来ました」と来談された方がいました。相談員と話したい、相談したいと、悩みなど解決の糸口を探るきっかけになったと話されました。相談員を知るきっかけになると思います。
- まだありません。不安が大きくて心理的サポートが必要な患者、しっかり傾聴が必要な患者を支援センターにつなぐという知識がうすいかもしい。
- ・医師ほどではないが「経済的問題がある患者は支援センターへ」という認識が濃い。  
・外来でも忙しく傾聴の時間がとれないと思う為、心理・社会的サポートが必要な患者を支援センターにつなぐという視点をもって患者と関わってもらえると良いと思う。
- 患者さんから気がかりや不安の発言が聞かれたとき、当院がん相談支援センターの冊子を手渡し、相談先を紹介していることが多い。ベースの知識がないまま、案内するより、冊子のほうが患者さん・ご家族に説明しやすいようである。
- 冊子のタイトルが「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」になっており、告知で衝撃を受けている患者に渡しにくいという声があった。
- 声をかけやすい
- がん相談支援センターへのコンサルテーションが増えました。今まで関わっていなかった部署から連携の依頼がありました。外来看護師が冊子を渡しがん相談支援センターの利用をすすめてくれている。
- 外来業務が多忙により十分な患者・家族との関わりが持てていないように感じた。関わる場面でも初診の方や診断直後の方へ渡すタイミングが難しいとの言葉が医療スタッフより聞かれた。
- ・話すことで悩みが整理できる  
・医師へ積極的に聞いても良いということが理解できた  
・話を聞いてもらうだけで落ち着く
- 経済的な心配があった患者が、冊子を持ってがん相談支援センターを訪問し、冊子を開いて、「この部分（医療費に関するページ）を教えてください」と言われた。患者にとって経済的なことは相談しにくい、冊子に記載があると、相談しやすくなるのではないかと感じた。
- 現時点ではなし
- なし（2件）

4) 今回、施設内で冊子を配布して良かったことはありましたか。患者さんやご家族にとって、がん専門相談員にとって、医療チームにとって等、もしあれば、具体的に教えてください。※必須

(n=29)

- 患者さん・ご家族にとって冊子が表紙のタイトル、さし絵がとてとてもわかりやすく、優しい色づかいであたたかいものであるため、診断直後の混乱している気持ちの中で、とても良いものと思います。又、冊子内のQRコードがあるためスマホ等使える世代であれば情報が更に広がり適切な情報を検索できると思いました。
- 言葉で伝えるだけでは、理解がむずかしい場面が多いですが、後で読みかえせることはよいと思います。記憶に残り、理解の促進につながります。
- 配布された患者さん、ご家族にとってはとても有用なものになったと思う。受け取ったと言って、相談に来られた方がいないため、残念ながら良かったことはわからない。
- 会話のきっかけになる。  
「相談支援センター」を案内するきっかけにもなる。  
「家に帰ってゆっくりよんでみて下さい」ということで、面談のしめくりに使えやすいかもしれない。
- がん関連の多職種会議で医師に診断時に配布を依頼したり、がん看護リンクナースを介して病棟にもアピールしたり、院内スタッフのがん相談支援センターの周知につながり、「がん相談支援センターのアピール」になっていると思われる。特に医師へのアピールの機会につながった。患者さん・ご家族が起こりうる不安をベースの知識として来訪するので、相談内容が明確化しやすい。患者さん・ご家族の来談への抵抗が低くなったように感じる。
- 診断されて間もない患者・家族へ伝えたい、知ってほしい内容が記載されているので、使いやすい冊子になっている。
- 患者さんに関わりやすい（この冊子をきっかけに）
- 医療チームの連携先が増えた。  
外来の診察に同席した後に患者、家族を支援していくことをより伝えやすくなった。  
職員にがん相談支援センターの存在や場所、役割を知ってもらう機会となった。
- 冊子配布にあたって、院内医療スタッフへがん相談支援センターについて知ってもらう機会となった事は良かった。
- ・診断直後に相談支援センターを紹介された患者さんより、このような相談窓口があって良かった、つらいきもちのまま帰らずにすんだと言われたことがあり、配布して良かったと思えた。  
・冊子と一緒にその年代の方に必要な情報をお渡ししたところ、いろいろな情報があるんですね、医療だけでなく、生活や経済面、日常生活の送り方などの支援について情報があつたのが有難かったと言って頂いた。
- ・診断早期の相談によって「早期離職」や「医療費」といった問題を検討できる。  
・チームで渡し方を検討したプロセス自体が良かった。各スタッフの意識付けにも繋がったと感じる。  
・新要件（すべての患者が早期にがん相談支援センターに立ち寄り）について検討する機会になった。また、今後取り組む際に冊子は有用であることが分かった。
- ・患者さんにとって、診断早期に必要な情報を手元におくことができる。必要時見ることができる。  
・相談員にとって、院内のスタッフに相談支援センターの役割や相談可能なことについて知ってもらう機会になる。
- 独居で高齢の方が冊子を読み、電話相談を利用されました。診断後間もない時期に冊子を読み、治療を選択するための意思決定に院内の複数の部署でサポートすることにつながりました。
- ・がん相談支援センターを周知するためのツールに使用できる  
・告知後混乱している患者を相談支援センターにつなぐことができる  
・がんに対する知識を深める初めの一歩となる一冊。ここから始まる。  
・元々病院オリジナルのがん相談支援センターのパンフレットを渡していたので、新たに冊子を配布しての変化は時に感じなかった（認定Ns）
- 情報収集方法が説明しやすくなった。ネットをむりやたらに検索しないように説明後、冊子で補足説明しやすいく
- 相談に来られなくても、患者さんご家族が病気や生活について考えられる冊子だと思っています。
- ・内容が集約され整理されたので読みやすい。一冊にまとまっているので複数渡さなくても良い  
・見やすい
- 院内でがん相談支援センターの周知はまだ低いが、今回配布することを依頼したことで、がん相談支援センターの利用が少ない診療科の患者が冊子を持参し、相談に来られた
- ・情報提供が出来る  
・困った時の相談先を理解してもらえる
- お渡ししながら具体的な相談内容を伝えられるようになった。
- ポスターやカードだけでは「がん相談支援センター」についてイメージがつかないところもあったようだが、今回の冊子は具体的な例も示されているため「がん相談支援センター」に行ってみようというきっかけになったようです。事例数は少ないが「冊子をもらった」と来室者あり。
- ・主治医から患者に直接相談支援センターを紹介してもらえるのは、患者との関係性作りの一歩としてよい機会である。  
・院内職員にがん相談支援センターの役割を知ってもらい、連携を活性化出来ると思われる。
- 各部署に協力を依頼した事で、がん相談支援センターをさらに活用してもらえるよう、再度院内周知できた。
- 説明したいことが1冊にまとまっており、全て説明できない場合でもお渡しして、1枚目を広げて、「このような内容がもこまれているので、ぜひ目を通してほしい」と説明し、がん相談支援センターの案内と一緒に渡すことで、情報提供につながったと感じることができた。
- 病院長から冊子の周知を行うことで、医師から興味関心を持ち、連絡が入ることがありました。  
・冊子を配布することに医師が協力的になりました。
- 外来病棟のエピソード、診断されあつという間にOPIになり、不安が強い患者に配布した冊子を渡したと、病棟師長から情報があつた。
- ・部署内・院内職員が、がん相談支援センターの周知・活用に関して協力して望むことができた。  
・院内職員に対して、がん相談支援センターの周知活動ができた。
- 診療科医師と直接話をする事で、（協力依頼時）がん相談支援センターについて周知できた。また、患者を支える連帯感が強くなった。
- ・直接伝えたいけれど、伝えきれない情報を患者・家族に提供できる  
・医師に対するがん相談支援センターの周知の機会となった

5) 今回、施設内で冊子を配布して大変だったことや困ったことはありましたか。

またそのような時、どのように対処しましたか。もしあれば、具体的に教えてください。※必須

(n=27)

- 現在、コロナ禍にありますために、がん相談支援センター専任者がコロナ患者の転院調整も担っております為に、この冊子配布後の相談対応がタイムリーに行えないこともあったことが困りました。現状では、がん相談もコロナ対応も大切なことであります為、やりくりして対応し、コロナ終息し、いつもの日常となることを願っております。
- ・「読むことがつらい、目も悪いので読むのがしんどい」と拒まれた方もいました。→パンフレットは家族に読む為に渡しました。患者には内容を口頭で伝えました。  
・精神的に落ちこみが強い時は、渡せませんでした。
- 限られた冊子数であり、分配するにも誰に渡そうか困った。診療科というよりは診断、告知等を多くする医師に主旨を説明し渡した。そのため経験の浅い医師のところまでは行き渡らなかったことが反省である。
- まだありません。10月～動かします。
- 医療スタッフ（主に外来診療科）に冊子を紹介しても、用途を理解してもらえず配布、手渡しされていなかったため、再度目的を外来診療科の看護スタッフに説明した。いまだに「がん相談支援センターを知らない」スタッフもいます。年間多くのスタッフが入職・退職を繰り返し、がん専門病院でない関心もばらつきがある大学・総合病院では、他の医療スタッフの協力を得ることも、継続して、繰り返し、理解を得るために説明することが大切と痛感しました。
- 医師から患者・家族へ手渡しして頂きたい思いがある。全診療科医師へ説明・お願いが難しい。現在（9月）医療情報課へも協力をもらい、各診療科医師へ資料の存在を伝える事を試みている。
- がん相談支援センターはなんでも相談している場所と認識されたのはよいことですが、コロナ禍で家族が気軽に病院に来れないことも関係して、入院の準備品、洗たくものをもっていくタイミング、入院費など、がん相談支援センターで対応することではない相談も増えました。本来対応すべき部署につなぎ、担当者からおろかえしTELしてもらうなどして対処しています。
- ・規模の大きな施設では、協力依頼から配布までの伝達が大変だった。曜日で外来担当医が異なるため、くり返しの案内が必要だったが、外来看護師も相談員も診断時のリアルタイムの声かけが難しかった。結果、各診療科へ100冊配布したが、相談者への配布は21冊であった。  
・毎月外来ラウンドをして、外来スタッフへ配布の声かけ依頼をした。がん拠点病院院内協議委員会でもくり返し案内した。
- 医師をはじめ院内他職種への周知、情報を求めている患者さんをどう把握していくのか、広報、周知が難しいと感じる。一つの方法で対応できるものでもないので、様々な方法を実施していくことを積み重ねていくしかないと考えています。
- ・現状では限られた診療科とのトライアルで実施しているが、これを全診療科で行った場合の影響が予想しにくい。  
・新要件で「すべての患者が…」とあるが、患者数の多い大学病院で限られた人員で行うことの不安・負担は懸念される。
- 外来スタッフからの意見
  - ・どの患者にいつわたすかが難しい
  - ・タイミングが難しい
  - ・がんと診断されてショックを受けている人にこのタイトルの冊子をわたすには躊躇する
  - ・対象者の選定が難しい
  - ・医師からの配布について、医師の理解があれば可
- まだ一部の診療科のみなので、拡大していくことが大変  
Drの協力を得ること⇒医局会で医師向け「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」の紹介動画を流す予定
- 冊子数に限りがあったので、すぐ在庫がなくなった。さらに有料で発注して対処した。今年度の予算に計上していなかったため、次年度は予算に組みこみたい。
- ・活用してもらう為に、内容を説明しても現場ではどこまで伝わっているか不明他
  - ・がん相談につながる様意識を持っていないと、各診療科は、業務で（検査、手術の説明etc）終わってしまう
- 全体に周知することは不足していると感じるため、院内全体に発信する機会をつくる予定である。
- がんと診断された方が確実に全員受け取れる体制がよりよいと感じた
- 主治医から渡していただくことのアプローチがしにくい。
- ・全診療科のブースに設置したので、冊子の準備が間に合わなかった。  
・冊子設置以前から認定がん相談支援センターの名刺サイズの案内は外来診療科医師の机の上に設置している。外来医療従事者への周知の程度が確認できていない。
- 告知時に全員に配布する方向で動き始めたが、告知直後の患者さんはまだ受け入れられない心理状態の方もおり、全員ではない方が良いという意見が出たので、配布方法を再検討した。  
アンケートP5、7.1）-Bのように対応する事とした。
- 周知が徹底しないことが悩みです。通院治療センターを初めて訪れる方へのパンフレットにも、冊子もしくは冊子の案内をもちこんでいこうと考えています。
- ・配布時「なぜうちの部署に配布？」というニュアンスのある対応もあったが、受け取ってもらえた。  
・大変困った事ではないが冊子を知ってもらうために看護師だけでなく診療科にも配布できればよかった。→診療科へは9月購入の冊子を覚悟後、活用依頼を行った。（外来医長にメールで冊子の紹介動画URLを添付し依頼）
- 大変だったことや困ったこと
  - ・配布の準備、配布開始後の物品管理（冊子補充、専用レターラックの管理）等の業務が増えた。
  - ・がん相談支援センターに関する院内職員の認知度は上がったが、職員の興味関心、冊子配布のモチベーションを保つことが難しい。  
どのように対処したか
    - ・配布に関する業務手順を作成し、事務業務は担当事務に依頼した。
- コロナ感染拡大時期と重なっており、冊子配布準備に時間がかかってしまった。冊子を配布いただく診療科医師への説明や、冊子に当院がん相談支援センターの案内を添付する作業など。
- ・医師からの察し手渡しに対して、ネガティブな反応を示す医師への対応
  - ・それに伴う相談員の疲労・ストレス
  - ・医師に対する直接的働きかけ以外を協力的な医師と相談
- 現時点では特になし
- 特になし、なし（2件）

6) 今後、冊子を活用する施設の相談員へのメッセージ等がありましたら、教えてください。※任意

(n=10)

- 患者・家族と医師を繋ぐツールとして大変有用な冊子であり、医師自身の精神的な負担軽減を図ることもできると思います。しかし、実際に活用していくためには病院（組織）としての協力が不可欠になると考えますので、今回の新指針等をもとに、組織に働きかけていくことが必要と考えます。
- がん相談支援センターを設置している病院に通院している患者（当院は通院していない）から、電話や窓口で相談を受けることがあります。「通院している病院にも相談できる窓口がありますよ」と伝えたと「え！！そんなんですか？？」という反応が返ってくることもあり、どの病院もがん相談支援センターの活用促進には苦労しているんだなと実感します。きっと、当院の患者も他院の所に相談している方がいるんだろうと思います。患者にとってアクセスしやすい、がん相談支援センターである様、皆で頑張っていきましょう！
- 浸透するまでに短期間では難しいと思います。施設の規模や特徴にもよるとは思いますが、あきらめず何度も説明しつづける必要があると思います。診断時期には、冊子を目にするこさえしんどい方もいらっしゃると思いますので、診断された方を幅広く捉え、患者さん・ご家族のペースの知識を知っていただくという柔軟に捉えることも大切だなと思いました。
- 診療科や医師により温度差があるため無理せず協力的なところからはじめていくといいです。
- 外来診断担当医師、外来看護師にまずはがん相談支援センターを知ってもらい、冊子とあわせて活用してもらおうと思います。
- 病院として取り組む体制づくりが大切
- 言葉で伝えても、都合の良いことしか記憶に残らない。冊子を上手く使った方が効果的な事があります。
- 医師の他に、看護師はもちろんですが、医師事務やクラーク等外来にかかわる医療スタッフへの説明をする機会を設けるのがよいと思います。目的を共有し、意見をもらいながら継続できると良いと思います。
- がん患者の対応を行う診療科医師、各部署の看護スタッフに「冊子」の良さを知ってもらう事。直接手渡してもらう事。
- なし

8. その他

7. 1) ~ 6)に記載しきれなかったことや、冊子の普及・活用を促進するにあたりご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。※任意

(n=16)

- 1人でも多くのがん患者・家族にこの冊子が届く事は、診断された直後に大変有用であると思われま。この冊子が、より多くの方に目に触れるように行政のHPやがん情報の冊子にも掲載頂く事もよろしいかと考えます。ご参考までに、神奈川県内の作成しております2冊冊子を同封します。神奈川県がんサポートブック第9版は、神奈川県内のHPからもPDFでダウンロード可能であり、ここ数年は毎年改訂しております。その改訂の際には神奈川県内のがん診療連携拠点病院及び、神奈川県がん診療連携指定病院のがん相談支援センターがん相談員も意見を出し、改定の内容に関わっております。がん防災マニュアルも様々な場所に置かれておりますので、広報の視点からこの冊子にも「がん診断されたあなたに知ってほしいこと」の冊子の紹介、URL、QRコードの掲載などを行って頂くこともよろしいかと考えます。情報把握をされていたら、失礼致します。群馬県のHP、大阪がんえナビのHPにはすでにリンクとして掲載などを行って頂くこともよろしいかと考えます。情報把握をされていたら、失礼致します。群馬県のHP、大阪がんえナビのHPにはすでにリンクとして掲載
- 協力的な医師もいるが、全く興味を示さない医師もあり、医師の差が大きい。がん相談支援センターについての理解を深めてもらうために院内の広報がもっと必要だと考える。その上での冊子の普及・活用が大切である。また配布冊数が医師一人あたりとして少なかつたため、医師も反応を感じることができず、「あってよかった」という事には至らなかった。継続して購入し配布していく予定である。
- 地域連携のクリニックなど、主に初期診断を受ける施設で設置できると認知度が上がると思います。件数という量強化ではないと思いますが、ちょうど、今年度COVID-19による影響で、冊子配布後の評価する期間とも重なっていて、月の全体の相談件数も減っていたように思いました。市民公開講座でも講演で冊子の一部を紹介させていただき、がん相談支援センターのアピールを行いました。
- 「がん診断されたあなたに知ってほしいこと」の医師向け動画がありますが、患者さん向けに紹介動画があったら使いたいと考えてます。待ち時間などで。
- コロナ禍で多忙なため、新しいこと、面倒なことをしたくないという医療者もいる。皆がギリギリの状況で頑張っている事もわかるので無理をさせてまで協力してくれるように強引なお願いはできない。全体への普及は難しい。
- ・「全ての患者ががん相談支援センターを認知すること」は重要だと思いますが、相談行動は相談者の任意であるべきだと思います。  
・冊子を活用することの検討が「相談の押し付け」にならないよう、注意が必要だと感じます。
- 8月中旬より、医師より患者へ渡すよう体制を整えましたが、忙しい診療のなかで、どこまで患者へ届くかは、今後の経過をみて評価をしていく予定です。（渡すタイミングや声かけなどが難しいという意見もあります） 外来や他部署との連携も見直し、冊子の普及や活用について考えていく予定です。
- ・診断間もない方に配布しているが、たくさんの情報が入る時期で、どこまで読んでいるのかが不明であり、可能であれば配布後に後日確認できるとよいです。  
・冊子配布と関連があるか不明だが、相談が増加した。
- がん相談支援センターのメンバー以外の院内医療者に、普及は今後の課題である。
- ・がん相談につなげる為、冊子は見本をマガジラックに置いて、希望者は相談室へ声かけてもらう様々な流れにしています。  
・相談室に入ることへの抵抗感を持つ方も有り、院内の配置（がん相談室）に工夫が要るのかと考えます。スーッと立ち寄って冊子を手に取れる場所作りを目標にしています。
- ・患者さんにとってより良いと思われる取り組みをすすめていただければと思います。  
・患者さん側にも周知があればと思います。また近年では病名を告げられたらご高齢者以外はインターネットで次回診察までにあらかじめ調べて来られる方が多い。検索でヒットするところに冊子がPDF等で見ることが出来ればと思います。



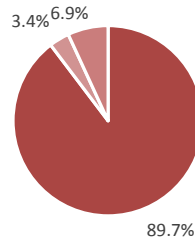
- がん相談支援センターがない施設に通っている方でもこの冊子を手にする事ができ、「がん相談支援センター」に繋がるような体制が整っていくと良いと思う。
- ・社会とがん  
「がん相談支援センターにご相談ください」の冊子との使い分けがよく分からない。  
・「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」という表紙は渡しにくいですねという意見もきかれました。
- 診断直後は、患者・家族も混乱しており、がん相談支援センターの理解がむずかしい場合があるが、時間が経過する中で、必要時に利用できるように、案内しておくことは、とても大切だと思います。今後、冊子を手渡す診療科を拡大すること、入院前オリエンテーション時にも案内することなど、検討していく予定です。
- ・好事例・困難事例の共有により、当院での取組のヒントを得られればと思っております  
・冊子紹介動画はコンパクトで活用しやすいと感じました  
・引き続き、協議会やがん対策情報センターからの冊子に関する広報・周知（特に医師向け）をして頂けると助かります
- 特になし

## 9. 備考

- 1) ご協力いただける範囲で、アンケートにご回答いただいた内容についてメールもしくはお電話等で確認させていただくことがあります。その場合のご意向とご担当者の方について教えてください。※ 以下1～3のいずれかに○をして、( ) 内には担当者名を記載してください。※必須

### 1) アンケートへの個別協力

選択肢	回答数	%
1. 既に、登録済みの連絡担当者への連絡を希望	26	89.7
2. 1以外の者(氏名: )への連絡を希望	1	3.4
3. 業務多忙により、アンケートの回答内容に関する連絡へは対応できない	2	6.9



- 1. 既に、登録済みの連絡担当者への連絡を希望
- 2. 1以外の者(氏名: )への連絡を希望
- 3. 業務多忙により、アンケートの回答内容に関する連絡へは対応できない

■ 2の記述回答 ※個人名記載のため、データをご確認ください、

個人名記載あり（医療支援課医療支援係、メール・連絡先は以前と同じです）

- 2) 施設内での冊子活用に関する取り組みについて、お写真などがありましたらご提供ください。ご提供いただける場合には、下記の調査事務局までご連絡ください。※任意